

# 職員採用案内

令和3年度



National Institution For Youth Education  
国立青少年教育振興機構





独立行政法人 国立青少年教育振興機構 理事長 鈴木 みゆき

当機構は「体験活動を通じた青少年の自立」を目指して、平成18年4月に発足しました。全国28の教育施設を設置し、それぞれの立地条件を活かした特色のある活動を展開し、青少年の健康な身体、感性豊かな心、様々な課題にチャレンジする意欲と能力など、社会を生き抜く力の育成に必要な、多様な体験活動の機会の提供に努めています。

また、当機構では、現在第4期中期目標を策定中で、子供たちの発達段階に合わせた質の高い体験活動を提供するとともに、環境教育や防災教育等施設の豊かな自然環境を活かした教育の機会の充実を目指しています。第3期のミッションである「早寝早起き朝ごはん」運動や「体験の風をおこそう」運動の遂行とともに「子供の貧困」対策等現代的な課題に今後もしっかりと取り組む所存です。

このように、青少年教育のナショナルセンターとして我が国の青少年教育をリードする当機構の職員には、今日の青少年の課題を的確に把握し、解決に向け積極的に取り組む力が求められます。その力は、機構職員としての専門性に加え、課題意識に基づく向上心とチャレンジ精神が基盤となります。

次世代のリーダーとなる皆さんも、我が国の将来を描く仕事に、私たちと共に取り組んでいきましょう。

## 青少年機構について

### 目的

国立青少年教育振興機構は、我が国の青少年教育のナショナルセンターとして、青少年を巡る様々な課題に対応するため、青少年に対し教育的な観点から、より総合的・体系的な一貫性のある体験活動等の機会や場を提供するとともに、青少年教育指導者の養成及び資質向上、青少年教育に関する調査及び研究、関係機関・団体等との連携促進、青少年教育団体が行う活動に対する助成を行い、もって我が国の青少年教育の振興及び青少年の健全育成を図ることを目指しています。

### 組織

独立行政法人国立青少年教育振興機構

#### 国立オリンピック 記念青少年総合センター

都市型の青少年教育施設として、青少年及び青少年教育指導者等の研修及び体験の場と機会を提供しています。  
(全国1か所)

#### 国立青少年 交流の家

ボランティア活動や就労体験といった交流体験を中心とした教育プログラムの企画・実施を行っています。  
(全国13か所)

#### 国立青少年 自然の家

野外活動や環境学習といった自然体験を中心とした教育プログラムの企画・実施を行っています。  
(全国14か所)



(写真：国立那須甲子青少年自然の家)



## 求める人物像

- 我が国の青少年教育をリードする気概をもち、常に向上心とチャレンジ精神をもって何事にも取り組める人
- 機構職員としての専門性を高めるとともに、自身の将来についてのビジョンを描くことができる人
- 当事者視点を欠かさず、課題意識をもって主体的に行動し業務を遂行できる人
- 笑顔で挨拶、そして思いやりの心をもって積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことができる人

# 1. 教育事業

青少年の課題や国の政策課題に対応しつつ、立地条件及び地域の特性やニーズに対応した、青少年の体験活動事業や青少年教育指導者等の養成研修事業を実施しています。

## (1) 青少年教育に関する地域力向上等のためのモデル的事業の開発

### ①豊かな人間性を育む長期体験活動事業

#### 平成30年度事例 ▲アルプスチャレンジキャンプ

- 施設名: 国立信州高遠青少年自然の家
- 参加者: 小学校5年生～中学校3年生 23名

本事業は、南アルプス、中央アルプスに囲まれた地域の特色を生かした8泊9日の長期プログラムを実施しています。前半は、仲間と協力した課題解決ハイキングで登山に対しての知識や技術を高めるとともに、野外炊事やテント迫などの生活体験プログラムを実施します。後半は、課題解決ハイキングや登山トレーニングで得た知識と技術を生かして南アルプスの栗沢山(2,714m)、仙丈ヶ岳登山(3,033m)の登山に挑戦します。



参加者全員が登ることができ、事後の感想発表では、「困難な状況を仲間と一緒に乗り越えることで達成感や仲間の大切さを感じることができた」といった感想が多く聞かれました。



### ②不登校、引きこもり、ネット依存、児童養護施設に入所する子供等、課題を抱える青少年を支援する体験活動事業

#### 平成30年度事例 ▲セルフディスカバリーキャンプ (文部科学省委託事業)

- 施設名: 国立信州高遠青少年自然の家
- 参加者: ネット依存傾向の青少年

国立病院機構久里浜医療センターと連携し、教育的観点だけでなく医療的観点も取り入れたキャンプを平成26年度より実施しています。平成30年度は、8月に「メインキャンプ」(8泊9日)を、11月に「フォローアップキャンプ」(2泊3日)を実施しました。プログラムは、教育的観点から実施する「ハイキング」「オリジナル料理作り」などの自然体験や集団宿泊体験に加え、久里浜医療センターが企画したネット依存学習等の医療的プログラムで構成しました。



キャンプの集団生活を通して、「人に話すことに前向きになりました。ダメな自分の中にも良さを見つけ、少し自信ができました。」「ゲームをしてしまった時に、キャンプのことを思い出して、変わらなくちゃと思うようになった。」等の感想が聞かれました。

さらに、過年度事業参加者を対象に9月に「セカンドフォローアップキャンプ」(2泊3日)を実施しました。参加者同士が前回のキャンプの思い出やインターネット・電子ゲームとの向き合い方について語り合うことで、同じ境遇の仲間と励まし合いながら自身の現状を乗り越えるきっかけとなるよう継続的な支援を行なっています。

また、これまでの成果を「ネット依存対策キャンプ実施運営マニュアル-メンターの役割を中心として-」としてまとめ、ネット依存対策キャンプの普及に取り組んでいます。



## (2) グローバル人材の育成を見据えた国際交流の推進

国内外の関係機関・団体等と連携して、青少年や青少年教育指導者等の相互交流を行う事業、青少年の異文化理解を促進する体験型の交流事業を実施しています。

## (3) 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上

- ①青少年教育指導者等の研修事業
- ②地域や学校における青少年教育指導者等の養成事業
- ③ボランティアの養成事業

## (4) 青少年の体験活動等の重要性に係る普及・啓発

青少年の体験活動や読書活動、基本的な生活習慣等の重要性について普及・啓発を行う事業を実施しています。

## (5) 子供の貧困対策

近年、「子供の貧困対策に関する大綱」や「すべての子どもの安心と希望の実現プロジェクト」が策定され、子供の貧困に対する取組が政府全体で進められています。

当機構においては、子供たちの生活習慣の確立や体験活動の充実のための事業を行っています。

- ①生活・自立支援キャンプ
- ②子どもゆめ基金による支援
- ③学生サポーター制度



### 「体験の風をおこそう」運動

当機構では、子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝え、社会全体で体験活動を推進する機運を高める「体験の風をおこそう」運動を青少年団体と連携して進めています。



全国協議会

### 「早寝早起き朝ごはん」国民運動

子供たちの健やかな成長には、「早寝早起き」をすることや「朝ごはん」を食べることなどの基本的な生活習慣を身に付けることが重要です。当機構では、「早寝早起き朝ごはん」全国協議会の事務局を運営し、この国民運動を積極的に推進しています。



## 2. 研修支援

学校や青少年団体、青少年教育関係者等が、学習の目的に応じた主体的で効果的な活動を行うことができるよう、全国 28 か所にある教育施設において広く学習の場や機会を提供し、研修目的達成に向けた、より効果的なプログラムの提案や教育的指導・助言等を行っています。また、社会性や規則正しい生活習慣を身につけることができるよう、共同での宿泊や朝夕のつどいの場や、標準生活時間を設けています。

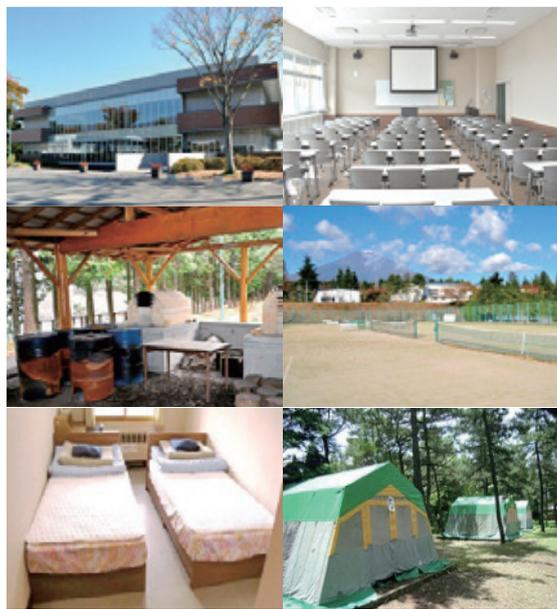
### 研修目的の達成に向けた教育指導・助言

初めて研修を行う団体、これまで以上に研修効果を深めたい団体等、利用団体のニーズに合わせた効果的な研修を実施するための教育的な指導・助言を行っています。

- ①効果的な研修計画策定のための支援
- ②指導者等の指導力向上のための支援

### 地方教育施設の主な設備

宿泊施設／研修・会議室／野外活動施設／キャンプ場／野外炊事場 他  
※施設により多少異なります。(写真：地方施設の設備一例)



### 活動プログラム例

- ①登山・ハイキング ▶ 自分の能力を最大限に発揮することで達成感を味わうことができます。また、自然を意識しながら森を散策することで豊かな感性を育てることもできます。
- ②自然を楽しむ ▶ 創造性やコミュニケーション能力、課題解決能力を高めることをねらいとしたプログラムとして森や林の中で自然を利用して楽しみながらできるゲームがあります。
- ③カッター ▶ カッターとは、10～20名ほどでオール（櫂）を漕いで進む艇のことで、仲間と助け合うことで協調性を育んだり、全力を出し切ることで大きな達成感を得ることができます。主にクラスの人間関係作りや新入生オリエンテーションに利用されています。
- ④沢登り・沢遊び ▶ 源流を探検したり、水辺の生き物観察などを通して自然の大切さや環境を考えることができます。小学校低学年から体験できるプログラムもあり、生活科や総合的な学習の時間、その他環境学習にも利用されています。
- ⑤文化・芸術・スポーツ体験 ▶ 貝殻の写真立て作り、陶芸、和紙工芸、科学おもちゃ作り等のクラフト活動は創造性を豊かにし、感性や表現力を養うことができます。  
演劇や音楽活動、各種のスポーツ活動やレクリエーション活動は学校のクラブやサークル、青少年団体のグループに多く利用されています。

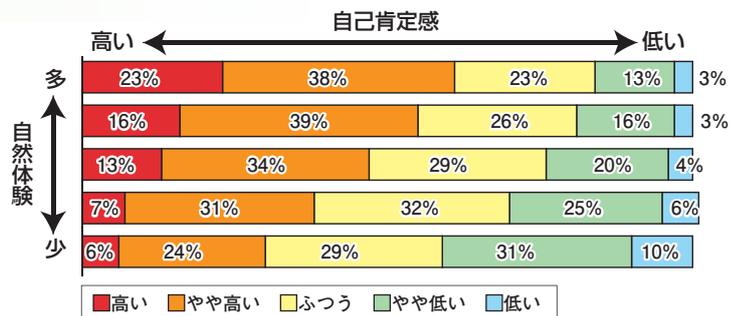
## 3. 調査研究

青少年教育に関する基礎的・専門的な調査研究を行い、その成果を広く提供・活用することにより青少年教育の振興を図っています。

### 〈主な調査結果〉

○自然体験が豊富な子供ほど、「今の自分が好きだ」「体力には自信がある」といった自己肯定感が高くなる傾向にある。

### 自然体験と自己肯定感の関係



「青少年の体験活動等に関する実態調査（平成26年度調査）」【結果の概要】より

## 4. 子どもゆめ基金事業

未来を担う夢を持った子供の健全育成を推進するため、民間団体が実施する自然の中でのキャンプや科学実験教室等の体験活動、絵本の読み聞かせ会等の読書活動、子ども向け教材を開発・普及する活動への支援を行っています。

### 平成30年度 申請・採択状況（一次募集・二次募集）

活動分野	申請件数	採択件数	採択率	交付決定額（千円）
子どもの体験活動	5,774	3,976	68.9%	1,373,932
子どもの読書活動	708	487	68.8%	147,899
教材開発・普及活動	46	9	19.6%	49,274
合計	6,528	4,472	68.5%	1,571,105



秋の古道ハイキングと焼き芋づくり



夏期特別体験「わくわくサイエンスキッズ！」



## 佐藤 英樹

国立日高青少年自然の家 次長

### ◎現在どのような仕事をしていますか？

雄大な大自然を活用した「体験」をとおして、次代を担う青少年の健やかな身体と豊かな心を育てることを目的に、発達段階に応じた子どものキャンプや指導者の養成など年間30ほどの教育事業を企画運営しながら、四季をとおして学校や企業、子ども会や家族などたくさんの利用者を受け入れている地方施設に勤務しています。

私はその中で皆さんが安心して安全に活動できるように、施設の職員や地域の皆さんと協力しながら様々な課題に対応し、所長をサポートしながら施設の運営をしています。

### ◎機構職員として働く魅力を教えてください

機構職員となり15年目を迎えますが、日々たくさんの笑顔に出会い、時に人が成長していく瞬間に立ち会えることがこの仕事の魅力だと思っています。そして全国に施設がありますから、私もこの15年間で福島県、北海道、東京都、宮城県、北海道と異動があり、引越しなどの大変さもありましたが、異動をきっかけにその土地の風土に触れ、地元の方との出会いをとおして、新しい気づきや

### 略 歴

平成17年に採用後、国立那須甲子少年自然の家に勤務。当機構発足後は、国立那須甲子青少年自然の家、国立日高青少年自然の家、機構本部、国立花山青少年自然の家を経て、平成31年4月より現職。

学びそして仲間ができ、とても充実した人生を家族とともに過ごしているのも魅力の一つです。

### ◎機構職員を目指す方へのメッセージ

当機構は青少年教育施設のナショナルセンターとして、青少年を巡る様々な課題へ対応するため、「体験の風をおこそう」運動や「早寝早起き朝ごはん」国民運動の推進など、国公立の行政機関や地域の学校・団体等と連携・協力しながら全国で青少年の健全育成に取り組んでいます。皆さんのその力を、アイディアを全国で活かしてみませんか？皆さんのご応募をお待ちしています。

### ある1日の仕事のスケジュール

8:30	9:00	10:00	13:00	15:00	17:15
始業	所長との打合せ	事務業務	施設整備	教育事業打合せ	終業



## 佐藤 直美

本部子どもゆめ基金部助成課 助成第二係主任

### ◎現在どのような仕事をしていますか？

「子どもゆめ基金」という、子どもの体験活動や読書活動等を行う団体へ助成金の交付を行う仕事と、助成を受けている団体やこれから助成を受けたいと思っている団体からの相談に対応しています。その他、職員や助成団体が使用する電子申請システムの管理をしています。

### 略 歴

私立大学での勤務を経て平成23年に採用。本部子どもゆめ基金部管理・普及課、本部総務企画部調査・広報課を経て、途中育児休業をはさみ、平成29年5月より現在の部署に配属。

### ◎育児休業を取得して変わったことはありますか？

育児休業を取得する前は、自分一人で仕事を抱え込むことが多くありましたが、今は子どもを抱えさせざるを得ない状況もあるので、上司や同僚に相談をし安心して仕事に取り組むことができています。当機構は、仕事と育児を両立させるための制度が整っているので、一人で悩むことも減りました。

### ◎仕事をする上で心がけていることは何ですか？

自分の視野を広げ、周りで起こっている状況を逐一把握できるように心がけています。自分の仕事だけを理解するのではなく、自分の周りや課内、機構内の動向について目を向けながら業務に取り組んでいます。

### ある1日の仕事のスケジュール

9:00	9:30	10:00	13:00	14:30	17:45
始業	事務業務	助成金の確定業務	打ち合わせ	ミーティング	終業

一日の始まりは、助成団体からのメールを確認・返信と一日のスケジュール確認から始まります。

助成団体から提出される実績報告書を確認し、助成金額の確定をします。

子どもゆめ基金システム業者との打ち合わせを行います。

課内ミーティングは各自の仕事や係内の進捗報告と課題を連絡・相談できる場です。

次の日のTODOリストを作成し、運動します。



## 寺中 拓也

国立淡路青少年交流の家 総務管理係主任

### ◎どのような仕事をしていますか？

地方施設の総務担当として、職員が施設で勤務する上で必要な給与支給や労務管理、各種保険制度や福利厚生に関する事務手続きの他、施設を適正に運営するために必要な危機管理マニュアルの整備や各種研修の実施、諸会議の運営や広報資料の作成、その他教育事業の運営補助等幅広い業務を担っています。

### ◎仕事上で印象に残っているエピソードを教えてください

現在の施設で勤務した初年度末、施設の活性化に向けて「利用者向上プロジェクト」と題した取り組みを提案し、翌1年間全職員が本取組を実施しました。風通しよい20名程度の職場のため、職員の自発的な提案が通りやすく、常にモチベーション高く業務に臨むことができます。

### ◎機構職員を志望した動機を教えてください

自然体験活動の持つ力を信じたからです。ダイナミックな活動の持つ魅力はもちろんですが、夜たき火を囲んだ時の居心地の良さ、薪割りでスパッと割れた時に自然と溢れる子供たちの笑顔、そんな小さな自然体験活動の持つ力を様々な方に感じて欲しいと思いました。

### 略 歴

国立諫早青少年自然の家での非常勤職員を経て平成21年に採用。国立信州高遠青少年自然の家、本部教育事業部普及課、同事業課を経て、平成30年4月より現在の施設に配属。



### ある1日の仕事のスケジュール

8:30	9:30	10:00	13:00	15:00	16:00	17:00	17:15
始業、朝礼、退所点検	メール処理	カット研修補助(救助要員給)	各種緊急事項対応	会議資料作成、とりまとめ	各種マニュアルの改訂	タペのつどい	終業



## 狩谷 順子

国立三瓶青少年交流の家 事業推進室事業推進係員

### ◎どのような仕事をしていますか？

自然豊かな環境で行政・地域や様々な機関の方々との連携、想いを共有しながら、青少年の笑顔や発見、感動体験に寄り添えることです。「人と人とのつながり」から生まれる新しいアイデアや連携の仕方、それを形にする「挑戦」が私のやりがいです。

### ◎休日どのように過ごしていますか？

三瓶地域のイベントに参加し、自然に触れて癒されながら、地域の皆さんと交流しています。

### 略 歴

大学卒業後、平成29年に採用。現在の施設が最初の配属先。

研修会などで出会った同じ青少年教育を仕事としている同世代の仲間と出掛けることもあります。一方で身体を休ませるようなゆっくりとした時間も大切にしています。



### ある1日のスケジュール

8:30	9:30	10:30	13:00	14:30	16:00	17:15
始業	点検	利用手続	打合せ	打合せ	退所手続	終業

職員全員で朝礼を行い、共有すべき情報を確認します。

研修室や体育館等の活動場所、宿泊室の点検を行います。

到着した利用団体が入所する際の利用手続を行います。

研修利用団体と活動の事前打合せを行います。

所主催の教育事業の企画立案や打合せを行います。

退所手続きなどを行います。

机上の整理、翌日の業務の確認を行い、帰宅します。

## 採用情報

### 業務内容

本部や施設における様々な仕事を通して、青少年教育の振興及び青少年の健全な育成を図るための活動、そしてそれらを支える組織運営を行います。多様な業務があり、大きくは次のように分けられます。

- **教育事業業務**  
教育事業（企画事業・研修支援・連絡協力促進事業・調査研究・国際交流事業等）の企画・実施及び連絡調整等
- **助成事業業務**  
本部の助成業務に係る企画・立案・管理及び調査、助成金の交付に関する業務および助成事業の審査等
- **管理業務**  
総務・人事・予算・経理・施設管理および連絡調整等

### 勤務条件・福利厚生

- **給与**
  - ・初任給 月給 182,200 円（大学卒）  
経歴等によって決定されます。また、勤務場所によって、これに地域手当が加算されます。
  - ・諸手当 扶養手当、住居手当、通勤手当他
  - ・昇給 年1回
  - ・賞与 年2回（6月と12月）
- **勤務地**  
機構本部（東京都渋谷区）又は全国28か所の青少年教育施設となります。その後の人事異動についても、原則として地域ブロック内での異動となりますが、勤務地の希望やキャリアアップのため、地域ブロック外への異動もあります。
- **勤務時間**  
9：00～17：45（実働7時間45分）  
※職種や勤務場所によってはこれと異なる場合があります。
- **休日休暇等**
  - ・完全週休2日、祝日、年末年始
  - ・年次有給休暇、産前産後休暇、介護休暇、リフレッシュ休暇、ボランティア休暇、子の看護休暇、結婚休暇等
  - ・介護休業、育児休業
- **各種保険**
  - ・健康保険・年金（文部科学省共済組合）
  - ・雇用保険
  - ・労災保険
- **共済事業**
  - ・給付（出産等）、積立貯金、貸付等各種の福祉事業
  - ・国家公務員共済組合連合会の直営病院、宿泊施設等
- **仕事と育児等の両立支援**  
職員の仕事と育児、介護の両立を支援するための勤務時間、休暇制度の整備のほか、仕事と育児の両立に関する相談窓口や相談員を配置するなど、男女問わず仕事と育児等の両立を支援するための取り組みを行っています。

### 選考案内等

国立青少年教育振興機構職員の採用は、当機構職員採用試験及び国立大学法人等職員採用試験から行います。国立大学法人等職員採用試験の各地区における採用予定人数は、各地区採用試験事務局ホームページをご確認ください。

#### 国立青少年教育振興機構職員採用試験

- 【概要】  
機構の業務に従事する職員を採用するための機構独自の試験
- 【受験資格】  
年齢が概ね30歳までの者  
（青少年教育施設、団体等教育機関における職務経験を有する者はこれによらない）
- 【選考プロセス】（予定）
  - ・受付（令和2年5月上旬～中旬）
  - ・第一次試験 適性検査等（6月上旬）  
書類選考等（6月上旬～中旬）
  - ・第二次試験 面接選考等（7月中旬）
  - ・最終選考（8月中旬）、合格（9月上旬）
- 【試験情報】  
最新情報は、機構採用情報ホームページをご覧ください。  
<https://www.niye.go.jp/about/announcement/recruit/2/>

#### 国立大学法人等職員採用試験

- 【概要】  
国立大学法人及び独立行政法人等が合同で実施する試験で、北海道、東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州の7つの地区で実施
- 【受験資格】  
平成2年（1990年）4月2日以降に生まれた者
- 【選考プロセス】
  - ・受付（令和2年5月13日～5月27日）
  - ・第一次試験 全試験区分共通の教養試験（7月5日）  
※二次試験以降は一次試験合格者を対象に各法人が実施
  - ・第二次試験 面接選考等（9月10日～9月11日）
  - ・最終選考（9月28日）、合格（10月上旬）
- 【試験情報】  
最新情報は、国立大学法人等職員採用試験ホームページをご覧ください。  
<https://www.janu.jp/univ/employment/>

### ボランティア活動のご案内

機構で働く職員の多くは、採用前に機構をはじめとする青少年施設等でボランティアなどの活動経験を有しています。

機構で働きたい方はもちろん、「子供の体験活動をサポートしてみたい」「青少年機構に興味がある」…という方は、その気持ちを行動に移してみませんか。

機構では、青少年の体験活動を支援するボランティアを募集しています。機構のボランティア養成事業に参加し、登録すると「法人ボランティア」として全国の青少年教育施設でボランティア活動をすることができます。

このほか、ボランティアに興味のある方であればどなたでも参加できる事業がありますので、下記のボランティア募集及び各施設のホームページをご覧ください。

#### ○ ボランティア募集

<https://www.niye.go.jp/services/plan/bora/>



#### ○ 施設案内

<https://www.niye.go.jp/facilities/facilities.html>



### 問い合わせ先

独立行政法人国立青少年教育振興機構 管理部人事課 令和2年4月発行

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 TEL 03-6407-7642 <https://www.niye.go.jp>